

(様式1)

平成25年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 126	提案機関名 横浜市漁業協同組合
要望問題名 東京湾に発生する貧酸素水塊の水産資源への影響評価及び発生メカニズムとその予測手法の開発について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 横浜市漁協のみならず、東京内湾で漁を行う漁業者は夏季の貧酸素水塊の発生によって漁模様に大きな影響を受けている。貧酸素水塊はシャコやマコガレイ、マアナゴ等の漁業資源変動にも大きな影響を与えると聞いている。現在、漁業者サイドでは、水技センターの発行する貧酸素水塊の発生情報を参考に、それに応じた操業方法を工夫する努力をしているところである。しかし、将来にわたって東京内湾で漁業を営むために、貧酸素による資源への影響評価や、貧酸素水塊の発生メカニズムの解明していただき、さらに発生の予測手法の開発を要望するところである。	
解決希望年限	1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> 2～3年以内 4～5年以内 5～10年以内
対応を希望する研究機関名	農業技術センター 畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> 水産技術センター 自然環境保全センター
備考	

ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	水産技術センター	担当部所	資源環境部
対応区分	実施 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 継続検討 実施済 調査指導対応 現地対応 実施不可		
試験研究課題名 (、 、 の場合) 漁業環境試験研究(東京湾貧酸素水塊研究)、複合的資源管理型漁業推進対策推進事業			
対応の内容等: 県では、東京湾の溶存酸素量調査を実施して貧酸素水塊の動向を監視するとともに、東京湾「溶存酸素量情報」などの形で情報提供を行っています。貧酸素水塊の形成機構につきては、多くの要素が複雑に絡み合い、現時点では予測は困難な状況です。今後他機関と連携して発生機構を明らかにし、予測手法の開発に取り組みたいと考えております。 また、水産資源への影響については、統計資料等を用いて貧酸素水塊が水産資源に及ぼす影響について検討するとともに、現在シャコについて実施している幼生、稚シャコの分布調査を通じて、貧酸素水塊による資源の加入への影響を調査して行きます。			
解決予定年限	1年以内 2～3年以内 4～5年以内 <input checked="" type="checkbox"/> 5～10年以内		
備考			